

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1270401027		
法人名	有限会社 高齢者介護センター		
事業所名	グループホーム宮田		
所在地	〒265-0043 千葉県若葉区中田町1041-1 (電話) 043-228-7780		
評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	〒270-1151 我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成21年3月22日	評価確定日	平成21年3月31日

【情報提供票より】 (平成21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	13 人	常勤 4人, 非常勤 9人, 常勤換算	6.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 平屋 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	有() 無()		
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 無()		有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	700 円	おやつ 円
または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (3月 1日現在)

利用者人数	8名	男性	6名	女性	2名
要介護1	1	要介護2	1		
要介護3	3	要介護4	2		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 68歳	最低	58歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	泉中央病院；高根町整形外科；野呂歯科クリニック；都賀デンタル
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、千葉県若葉区郊外の住宅地に立地する木造平屋住宅を改造した施設である。運営者は、地元で食品ストアを運営して信頼も厚く、自治会長歴13年および現在は自治会連合会長を務めている。地域の福祉要望に呼応し開設したもので、「利用者が長期にわたり安心かつ快適に暮せるような共同生活の場として機能するように頑張ります」との理念を掲げ、日々のケアは「生き生き、のんびり、あたたかく」をスローガンとして取り組んでいる。利用者定員8名の内、男性が6名を占めている。生活保護受給者の入居についても、親切な対応を心掛けている。職員の定着は極めて高く、運営者、施設長、職員は明るく元気にケアに取り組み、利用者の生活向上に効果を上げている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価結果については、運営者と職員が検討し改善を実施した。主な改善項目として運営推進会議の充実、個人情報取り扱い厳格化、車使用での外出の増加、消防署職員4名の指導による防災訓練などの改善を図った。報告書は居間に掲示されており、いつでも閲覧可能となっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、施設長、副主任、介護支援専門員、夜勤担当で原案を作成し、全職員に回覧し、意見聴取のうえ運営者の承認を得て決定した。評価員の訪問調査時には施設長、副主任、介護支援専門員の3名が対応し、随時他の職員も参加した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は千葉市の指導により年3回開催している。出席メンバーは家族1名、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、有識者として市職員OB、運営者、施設長、副主任、介護支援専門員である。主な議題は、体調急変時の対応、入居率と利用希望状況、誕生会やクリスマス会などの行事予定と行事への参加依頼等、多岐にわたった。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見、相談、苦情については、契約時にその仕組みや対応について説明するとともに、玄関に掲示している。面会時には積極的に意見、要望の把握に努めている。利用者の生活の様子や健康状態は毎月の利用料連絡時に報告し、心身の変化や受診結果は必要により電話連絡している。ホーム通信「GH宮田だより」を年4回発行し家族に送付している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営者は、自治会長や自治会連合会の会長を歴任し、自治会との連携や近所との交流は密である。また近所の方からは野菜やお花、果物など頂くことが多い。自治会主催の盆踊り、お祭り、運動会、バザーや老人会の行事等に積極的に参加している。誕生会やクリスマス会、ぶどう狩り等のホームの行事には民生委員や老人会メンバーの参加を得ている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設にあたり、運営者が「利用者が長期にわたり安心かつ快適に暮せるような共同生活の場として機能するようにがんばります」という独自の理念をつくった。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関、居間及び事務室に掲示し、職員はいつでもどこでも確認出来る。理念実現に向けて、日々の心構えとして「生き生き、のんびり、あたたかく」を合言葉にケアに当たっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の盆踊りやお祭り、老人会の行事などに参加し、ホームの誕生会やクリスマス会などには、老人会や民生委員の参加を得るなど地域との交流は密である。また運営者は地元の方であり、自治会長を13年務め現在は自治会連合会長を務めるなど信頼を得ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価報告書の指摘事項は、運営者と職員全員で検討のうえ改善に取り組んでいる。運営推進会議の充実、防災訓練の実施、外出支援の充実については改善を図った。報告書は居間に掲示している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	千葉市の指導により年3回開催している。参加メンバーは家族1名、民生委員、自治会長、地域包括支援センター職員、市職員OB、ホームの職員3名、施設長、運営者で、緊急時の対応、誕生会やクリスマス会等の行事についてなどを協議した。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	計画作成担当は毎月、市の担当ケースワーカーと連絡調整している。介護支援課や地域包括支援センターには必要の都度伺い連携をはかっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	生活の様子や健康状態などは、利用料連絡時に文書で報告している。心身の状態の変化や受診結果などは、電話で報告をしている。金銭管理は行っていない。また、年4回「グループホーム宮田だより」を発行している。	○	利用者の高齢化とともに体調急変や事故の発生が想定される。これらに適切に対処するため、家族や後見人さらに担当ケースワーカー等との日頃から密接な連携を心掛けることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、相談、苦情等を受ける仕組みについては重要事項説明書に明記し、玄関にも掲示して周知を図っている。毎月面会に訪れる家族からは、職員が積極的に意見等の把握に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当ホームは、職員の定着率が高く開設以来4年離職者はいない。新入職員はチームを組んで教育訓練(OJT)して、サービスの低下を少なくするように努めることとしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、費用をホーム負担で積極的に職員の研修に取り組み、資格取得に結びつくよう支援している。外部研修として、社協主催の後見人制度研修や、消防署の防火管理者講習、市GH連絡会主催の認知症や拘束排除等の研修に参加させている。不参加者には伝達講習により情報の共有をはかっている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>千葉県GH連絡会に参加しており、毎回50人ほど参加する研修受講などを通じて同業者との交流に努め、貴重な情報を得ている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>契約前に見学や遊びに来てもらったり、1週間のお試し入居を通じて雰囲気や他の利用者、職員に馴染んでもらえるようにしている。</p>		
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>掃除や洗濯物たたみなど本人の出来ることを職員と一緒にしたり、博識の利用者からは漢字やことばの意味を教えてもらうこともあり、ともに支えあう関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、職員にして欲しいことや本人がしたいことなど希望に沿えるよう努めている。入居当初筆談のみ対応の利用は、思いを受け止めてケアしているうちに1ヶ月後には会話出来るようになり、ホームにも馴染んで貰えるようになった。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前の本人や家族の面談、病歴や健康診断結果等をもとに職員や関係者と話し合い、その結果を織り込み、入居前の生活が継続出来るよう本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しのほかに、心身の状態に変化が見られる時は都度、家族から話を聞いたり職員と検討して、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームの食事は、なるべく地元の野菜を使う、手作りに心がけるなどで1週間単位で献立をたて、利用者の食への満足度向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医受診は家族対応であるが希望によっては通院介助している。家族の理解を得て、入居者全員にホームの指定医院での受診も勧めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したときは、特養に移ってもらったり、ホームでの対応が出来なくなったら、協力医療機関に入院してもらうことを契約時に話している。ホームでの終末期の看取りについては今のところ予定していない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	情報の保護については個人情報保護方針に添って対応しており、契約書、運営規定にも明文化している。利用者一人ひとりに誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっているが、一人ひとりの希望に沿うよう支援している。ゲームや将棋、パズル、ぬり絵などをして自由に過している。飼っていた仔犬と一緒に入居した利用者があり、現在、仔犬は皆の癒し犬になっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お絞りたたみやテーブル拭きなど準備や片付けなど一緒に行っている。調理師が2名おり、食事の好みのリクエストにはすぐに応えるようにしている。出前を取ったり時には外食にも出かけるなど、食事が楽しみになるよう支援している。	○	グループホームにおいて調理師が2名おり、栄養バランスに配慮した美味しい食事の提供は利用者の楽しみになっている。これからも好みの食事の提供が継続されるよう期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回、月・木の午後が入浴日である。その他に夏期はシャワー浴も頻繁である。利用者全員が入浴を楽しみにしており、利用者、職員がマンツーマンの対応なので色々なことを話し合う時間にもなっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	博識の人や電気技師など、利用者各々の特技が皆の役に立つことにつながっている。楽しみごとの支援では、ホームの車が3台あり、昭和の森公園などへ、お弁当を持って全員揃っての遠出の外出も度々である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩が日課となっている。その他に近くのコンビニの買い物の同行など、本人の希望に沿って外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の所在を常に視野に入れたケアを通して、玄関や門扉も施錠しておらず、鍵をかけないケアを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下、火災を想定した避難訓練を実施した。当ホームは古い木造なので特に消火器、火災報知器等の設備に配慮している。日頃より地域の住民の協力を得られるよう努めている。夜間訓練はしていない。	○	夜間は職員が一人体制になるので、夜間を想定した避難訓練の実施が望まれる。また、古い木造という配慮から漏電予防のため電気配線や器具の定期的な点検実施が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量等は記録表でチェックしている。身体状況に応じて、食事介助で食べてもらう、ミキサー食や軟食にする、水分やカロリーの過不足が無いよう配慮するなどの支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には観葉植物が置かれ、ガラス窓は季節に合わせたシールが貼られ、壁には利用者の似顔絵が並んで、和やかな雰囲気である。廊下や居室などの耐震用の柱は、リハビリや歩行時の助けにもなっている。加湿器も置かれ適切な住環境へ配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと箆笥は設備されている。好みに応じて写真を壁面いっぱい飾ったり、植物を置いたり、使い慣れた小物類を置いたり、本人が居心地よく過ごせるよう自由に配置している。各居室には空気清浄機が置かれ気持ちよく過してもらえるよう配慮している。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。